

具体的な対応がわかる 気になる子の保護者への支援

— 子どもの状態をどう親に伝え、サポートしていくか —

第1章

気になる子の保護者を 支援するための基本

こんな保護者はいませんか……8

気になる子どもの保護者のタイプ……10

- ①わが子の状態に気づかない
- ②変だと感じつつも楽観的にとらえている
- ③変だと感じつつも気づかないふりをする
- ④原因がほかにあると考えている
- ⑤「わが子には障害がある」と決めつける
- ⑥すでに適切な障害受容ができている

気になる子どもの保護者に対して
保育者がすべきこと……16

- ①最初に困り感に気づき、状態を把握する
- ②コツを踏まえたうえで事実を伝える
- ③園と家庭で同じ方法を用いる提案を
- ④医療機関や療育機関を勧める
- ⑤保護者の不安に耳を傾け受けとめる
- ⑥地域の保健師と連携して支える

気になる子どもを伸ばすには……23

第2章

気になる子どもをもつ 保護者の心理を理解する

保護者が子どもの状態を
受け入れないのは当たり前……26

わが子の状態に気づけない保護者……28

へんだと感じているのに
なぜ目を背けるのか……30

- ①状態を認めると将来を否定すると誤解している
- ②周囲から障害児であると思われることが嫌だ

医療機関や療養機関の利用を
隠すのはなぜか……34

母親と父親の間で認識がずれている……36

両親と祖父母の間でもずれが生じる……38

第3章

障害受容の過程

発達障害のある子どもをもつ保護者の
障害受容はどのように進むか……………42

- ①受容には時間がかかるもの
- ②身体障害がある場合との違い

受容へ向かう過程……………46

- ①精神的打撃
- ②否定・パニック
- ③怒り
- ④敵意と恨み
- ⑤罪悪感
- ⑥孤独感
- ⑦精神的混乱と無関心
- ⑧あきらめと現実の直視
- ⑨新しい価値観の獲得



第4章

保護者に子どもの状態を伝えるコツ

保護者を怒らせてしまう不適切な対応……………60

- ①立ち話のついでに子どもの様子を伝える
- ②専門家のコメントをそのまま伝える
- ③障害名を用いて話す
- ④子どもの状態に無理に目を向けさせようとする
- ⑤子どもの問題点ばかりを伝えすぎる
- ⑥保育者や周りの子が困っていると伝える

子どもの状態を伝える方法……………66

- ①子どものありのままの姿を見せる
- ②通告ではなく相談する
- ③講演会を開催する
- ④本を用いて説明する
- ⑤子どもの発達の見通しを伝える

さらに配慮が必要な場合……………78

- ①アスペルガー障害の場合
- ②ADHD 衝動型の場合
- ③ADHD 不注意型の場合
- ④子どもが3歳未満の場合
- ⑤保護者に発達障害がある場合



第5章

子どもの状態を伝えたあとに保育者がすべきこと

園と家庭との連携を強くする……90

医療機関への受診を勧める……96

- ①医療機関への受診の勧め方
- ②医療機関への受診・診断までの流れ
- ③医療機関を受診する目的

医療機関との連携を図る……102

- ①療育機関で行っている活動
- ②療育機関と園の連携の必要性

就学に向けて……106

- ①特別支援学校での教育
- ②特別支援学級での教育
- ③就学までの流れ
- ④小学校との連携



それでも
だめなら…

子どもの状態に目を向けようとしない保護者には……116

- ①深追いをしない
- ②子どもが園にいる間に保育者ができることをする
- ③あきらめる